Lesson 20　Beginner Theory 1 - C Major Scale

Lesson 20　基礎理論 1 – C メジャースケール

ここで少し基礎的な音楽理論をやっておこう。
頭の中でピアノの鍵盤をイメージして欲しい。ピアノの白鍵は C メジャースケールだ。
ここからは C メジャースケールを元にして基礎理論を解説していきたい。
まず、C メジャースケールというと、普通の人はこの C（5 弦 3 フレット）から弾こうとするだろう。
みんなは C コードは知っているでしょ？
それを押さえた上で、開放弦を上手く絡めれば、無駄な動きなしで C メジャースケールが弾けてしまう。
こんな感じだね。

-playing(0:54)-　（4 弦開放 D、3 弦開放 G、2 弦開放 B、そして最後に C だ）

-playing(1:06)-

(1:26)
（このような）基本的なスケールは手に馴染ませておいた方がいいね。
これがハーモナイズド・メジャースケールへの理解の土台だ。
（訳者注：Robben の意図の中では、ハーモナイズド・メジャースケールは、一般的に言われるダイアトニックコードと同義）
初心者にとって、C メジャースケールは手に馴染ませるまでにしばらく時間がかかるかもしれないけど、絶対に必要だ。
全ての音楽はこの「ドレミファソラシド」という 7 つの音の上に成り立っているからね。
もちろん最後の「ド」はオクターブ上の「ド」だ。
ということで、ちょっと練習してみてね。
次のレッスンでもう少し深堀するよ。

【注記】
・押弦するポイントについて Robben は様々な言い方をしていますが、ここでは「5 弦 3 フレット C」「6 弦開放 E」などの表記に統一します。
・翻訳モノにありがちな読み難さの一因となっている「直訳」を排除した結果、Robben の実際の言葉とは若干違った表現になっている個所がありますが、読者にとってのストレスのない自然な理解を促すためのものであり、Robben が言わんとしていることはそのままに、大局を損なうことのない翻訳を心がけました。
・モードの解説において「〇〇スケール」と「〇〇モード」の言葉の使い分けはせず、Robben の言に最大限忠実に訳しながらも、より理解をしやすいように、柔軟にそれぞれを言い換えて訳しているケースもあります。
翻訳　山岸敦